

古代から現代まで、日本の気象災害の歴史を通覧

台風・気象災害全史

〈シリーズ災害・事故史3〉



9784816921261

宮澤 清治，日外アソシエーツ 共編
A5・480頁 定価(本体9,333円+税)
ISBN978-4-8169-2126-1 2008年7月刊行

2017.3

台風、豪雨、豪雪、竜巻など、

日本の気象災害を時系列でたどれる記録事典

●西暦500年代から2007年までに発生した、日本の気象災害2、461件を年表形式(簡略な解説付き)で通覧できる記録事典です。

詳細な解説により、災害の背景、経過、被害状況を把握

●明治以降の大災害55件については、科学的データをもとに、事実経過、被害状況などを詳説。慰霊碑や参考図書などの関連情報も掲載しています。

●「索引(総説・第一部)」「主な種類別災害一覧(第二部)」「参考文献」付き。

【収録災害の例】

大災害55件は詳細に解説

- 明治17年8月25日の風水害
 - 明治18年の暴風雨・洪水
 - 十津川大水害
 - 別子銅山を直撃した台風
 - 明治43年の洪水
 - 東京湾台風
 - 大正7年豪雪
 - 昭和2年豪雪
 - 室戸台風
 - 阪神大水害
 - 黒部峡谷雪崩
 - 周防灘台風
 - 枕崎台風
 - カスリーン台風
 - キティ台風
 - ジェーン台風
 - 1953年台風13号
 - 洞爺丸台風
 - 諫早大水害
 - 狩野川台風
 - 伊勢湾台風
 - 38(さんばち)豪雪
 - 1966年台風26号
 - 42・7豪雨
 - 飛騨川豪雨
 - 47・7豪雨
 - 1974年台風16号
 - 56豪雪
 - 長崎大水害
 - 山陰豪雨
 - 鹿児島豪雨
 - 関東地方の大雪
 - 高知県の豪雨
 - リンゴ台風
 - 熱帯低気圧の大雨
 - 2000年東海豪雨
 - 新潟・福島豪雨/福井豪雨
 - 九州・首都圏の記録的大雨
- など

編者 宮澤 清治 みやざわ・せいじ

1923年長野市生。1942年気象技術官養成所(現・気象大学)卒。元・気象庁天気相談所長。NHKラジオ・テレビ「気象情報」の解説者を歴任。著書に『近・現代 日本気象災害史』(イカロス出版 1999年刊)などがある。

〈シリーズ災害・事故史〉

古代から現代までの災害1,847件を年表形式で掲載

地震・噴火災害全史

災害情報センター，日外アソシエーツ 共編

A5・390頁 定価(本体9,333円+税) ISBN978-4-8169-2089-9 2008.2刊

明治以降に発生した事故2,298件を年表形式で掲載

鉄道・航空機事故全史

災害情報センター，日外アソシエーツ 共編

A5・510頁 定価(本体8,000円+税) ISBN978-4-8169-2043-1 2007.5刊

好評
既刊

お問い合わせは… 日外アソシエーツ 営業局

TEL.03-3763-5241(代) FAX.03-3764-0845
〒140-0013 東京都品川区南大井6-16-16 <http://www.nichigai.co.jp/>

■書店名	注文書	台風・気象災害全史 〈シリーズ災害・事故史3〉 定価(本体9,333円+税) ISBN978-4-8169-2126-1	冊
		地震・噴火災害全史 〈シリーズ災害・事故史2〉[既刊] 定価(本体9,333円+税) ISBN978-4-8169-2089-9	冊
		鉄道・航空機事故全史 〈シリーズ災害・事故史1〉[既刊] 定価(本体8,000円+税) ISBN978-4-8169-2043-1	冊
■お名前			

CASE

長崎大水害(昭和57年7月豪雨)

date 1982年(昭和57年)7月10日~26日

scene 関東以西

水害の背景

1982年は梅雨入りが遅い年で、九州北部では平年より8日程度遅い6月13日だった。このため、節水を呼びかける自治体もあったほどの記録的な少雨が続いた。しかし7月になると、梅雨前線が活発化して関東地方以西では一転して多雨傾向となり、10日から20日にかけて西日本各地では日降水量が100mmを超える大雨が相次いだ。

梅雨明けも平年より大幅に遅れ、関東甲信地方と東北地方では平年だと7月20日~23日頃の梅雨明けが8月上旬までずれ込んだ。

水害の発端と概要

この大雨は7月16日に広島市で223mmの日降水量を記録し、20日には長崎市が広島市を超える243mmの日降水量を記録した。九州の山間部では、10日から20日にかけての降水量が1,000mmを超えた所もあった。

21日以降は梅雨前線の活動は小康状態となり、数時間青空もぞいで日差しが差すほどであったが、23日から25日にかけて、低気圧が相次いで西日本を通過したため、梅雨前線の活動が再び活発化した。

23日には、低気圧の通過に伴い、梅雨前線が九州北部付近まで北上した。15時までの1時間に対馬市厳原町で64mm、17時までの1時間に平戸市で75.5mmなど、当初は長崎県北部地方を中心に雨脚が強かったが、強い雨の範囲は次第に南下。19時ごろから翌24日未明にかけて、南海上の湿気を多く含んだ空気が舌状になった「湿舌現象」の発生により、長崎県南部は集中豪雨となった。

長崎市中心部にある長崎海洋気象台では、23日の20時までの1時間に111.5mm、21時までに102mm、22時までに99.5mmと、3時間連続で100mm前後の猛烈な雨を観測し、3時間雨量は313mmに達した。これは6月の月間平均雨量に匹敵するほどの雨量である。また、東長崎地区に設置された雨量計では、同時間帯に日本の3時間雨量の歴代3位に匹敵する366mmを記録した。

雨は23日夜になっても、1時間に100mmを超える猛烈な勢いだった。長崎では3時間に313.0mm、日降水量448.0mmの豪雨となり、長崎市内を中心に土石流やがけ崩れが発生し、大きな災害となった。

翌24日は、梅雨前線が南下し、島原半島や熊本県北部を中心に大雨となった。熊本市では日降水量394.5mmを観測。さらに25

key words 【キーワード】：湿舌現象 盛夏短い 水害多発

「第Ⅰ部」は55件の大災害を詳説

事実経過・被害状況とともに
慰霊碑や参考図書も記載

紀伊半島南部で日降水量を超える大雨を記録した。から25日にかけての大雨豪雨」と命名。また、この83年10月に「記録的短日降水量200mm以上回数」は364回で、これは2004年(平成16年)最多の回数であった。

23日、夕食や帰宅時間の猛烈な雨が集中した。雨脚が強まる前の16時発生して厳重な警戒を呼びかけた市民の多くは避難することはなく、災害に巻き込まれた状態だった。

長崎市の特性が災いする犠牲が溺死者を大きく長崎における大水害の特徴となり、夜間、救助作業が重なり住民の避難の足

が鈍っていたところを、短時間での冠水により車やバス、電車の立ち往生、橋梁流失や土砂災害による交通寸断が短期間に発生し、なすすべがなかった。通信の輻輳や寸断で行政当局に救助を求める通報すらもままならず、通報を受けた行政側も救援が思うに任せないため、被害は拡大していった。なお、この集中豪雨のため重要文化財である眼鏡橋が半壊した。

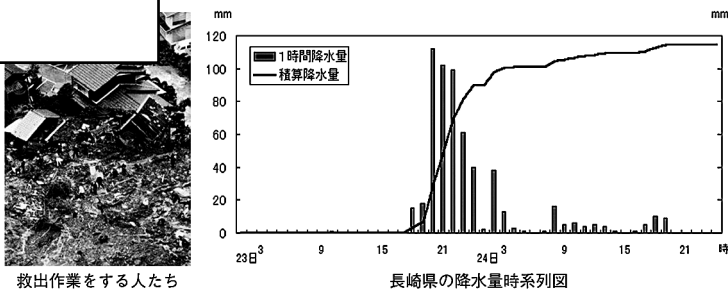
総務省消防庁の消防年表によると、8月3日の時点で、長崎県地方中心の死者・行方不明は439名、負傷者は1,175名、建物損壊3,039件で、うち長崎大水害による死者・行方不明は299名、負傷者は805名、建物損壊1,540件だった。

【熊本県での被害】

24日に前線が南下したため、洪水やがけ崩れなどの被害が相次いだ。熊本県内での死者・行方不明者は24名、床上浸水3871棟、床下浸水11351棟、建物の全半壊220棟。

【他の地区の被害】

山口県下松市で3名が死亡したほか、佐賀県や大分県でもこの豪雨により死者が出た。



救出作業をする人たち

長崎県の降水量時系列図

~昭和38年(1963年)

1098 突風・降雹 1963年(昭和38)1月20日~21日 長野県南部

1月20日午後、長野県の南部に998mbの副低気圧が発生、発達しながら関東地方の南部を通過後、同21日早朝に鹿島灘へ抜けた。このため伊那郡と佐久郡に雹や雷をともなった突風が吹き、住民2名が負傷、住宅20棟が全壊、141棟が半壊、1,411棟が破損、住宅以外の217棟が被災、164世帯が被災した。

●負傷者2名、全壊住宅20棟、半壊住宅141棟、破損住宅1,411棟、被災非住宅217棟、被災者164世帯

1099 雪崩 1963年(昭和38)1月24日 福井県勝山市

1月24日、福井県勝山市野向町横倉で、幅約50m、長さ約1.5kmの表層雪崩が発生し、公民館など4戸が倒壊、住民13名が死亡、3名が行方不明(後死亡確認)になった。

●死者16名、倒壊家屋4戸

1102 雪崩 山陰地方

2月5日から6日にかけて、兵庫県北部や島根県など山陰地方で雪崩が発生し、兵庫県温泉町で住民4名が死亡、同県浜坂町で10名が死亡、島根県大東町で5名が死亡するなど各地で30名が死亡、家屋多数が倒壊した。

●死者30名、倒壊家屋多数(兵庫・島根県のみ)

1103 第5大勢丸転覆 1963年(昭和38)2月14日 サハリン沖

2月14日、サハリン西海岸の沖合で、操業中の底引網漁船第5大勢丸(84t)が猛吹雪により転覆し、乗組員16名のうち15名が死亡した。

●死者15名、船舶1隻転覆

1104 雪崩 1963年(昭和38)2月20日 青森県黒石市

2月20日、青森県黒石市青荷沢の開拓地内で雪崩が発生し、伐採作業員10名のうち7名が死亡、家屋10棟が倒壊した。

「第Ⅱ部」は年表形式で通覧

西暦500年代から2007年まで
2,461件を通覧